

### 行動計画シート(下半期)

行動主体名	下飯支所 地域振興課
課・室・施設長名	下江 伊八郎
① 組織の使命	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支所内の連絡調整</li> <li>・ 地区コミュニティ協議会との連携</li> <li>・ 適法・適正な課税の実施</li> <li>・ 市税等の現年滞納分及び過年度滞納分の徴収</li> </ul>
② 現状認識及び中期展望(向こう3年内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティ協議会の充実を図り, 地域振興計画の策定支援</li> <li>・ 市税等の収納対策の強化</li> </ul>
③ 事務改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員間の相互応援体制による事務執行</li> </ul>
④ 接遇改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きな声で挨拶をして, 笑顔で応対</li> <li>・ 親切丁寧な電話の応対の励行</li> </ul>
⑤ 経費節減に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課職員全体が資料を共有する等用紙の節約</li> <li>・ 封筒・ファイルの再利用</li> </ul>
⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務の応援体制として事務分掌の見直しを行うと共に, 相互の協力を行うようになってきた。</li> <li>・ 接遇改善で, 電話の対応については適切に対応できていようになってきた。また窓口の来客に対しても対応が良くなっている。</li> <li>・ 経費節減については, 封筒・ファイルの再利用や用紙の節約では, それぞれ良くなっている。さらにコピー用紙については, ミスコピー用紙のFAX用紙としての再利用にも努める等, 経費の節減に向けて自覚してきている。</li> </ul>
⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員自らが責任と自覚を持って業務を遂行するよう職員相互の連携を図りながら計画を遂行していく。</li> </ul>
⑧ 下半期及び17年度を通して具体的な取組の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経費の節減では, ミスコピーの縮減や資料等の両面コピーの徹底等また, 電話の対応や窓口の対応についても取組みの成果が現れてきた。</li> </ul>



### 行動計画シート(下半期)

行 動 主 体 名	<b>下飯支所 市民福祉課</b>
課・室・施設長名	<b>松田 元廣</b>
① 組織の使命	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民窓口サービスの向上</li> <li>・ 健康に対する意識向上と参加の促進</li> <li>・ 医療施設及び設備の充実及び予防医療の充実</li> <li>・ 社会福祉推進体制の充実</li> <li>・ 介護保険制度の適切な運用</li> </ul>
② 現状認識及び中期展望(向こう3年内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康相談・生活習慣病等に対する意識啓発の推進に努める。</li> <li>・ 窓口業務での住民への適切な対応・サービスに努める。</li> <li>・ 医療機器等の段階的整備を進めながら市民のニーズに対応できるよう努める。</li> <li>・ 社会福祉協議会や民生委員との連携及び職員の資質向上に努める。</li> <li>・ 介護が必要な高齢者に対して必要な人が必要な時にサービスが受けられるよう努める。</li> </ul>
③ 事務改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 窓口, 移動連絡車業務で大事なことは市民への応対, 接遇が重要であり, 待ち時間を短く処理できるよう職員の質向上を図る必要がある。</li> <li>・ 福祉・保健関係等の事務, 給付に関する事務処理が遅滞しないよう職員の資質向上を図る。</li> <li>・ 職員一人が持つ事務分掌が多いので, 職員一丸となり住民へのサービスが低下しないよう努める。</li> </ul>
④ 接遇改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民福祉課にとっては, 戸籍窓口及び診療所に関しても直接市民と接する業務であるので相手の立場を理解し, 誠意を持って接するよう努め, 職員全員が知識向上するように定期的な事務分掌の見直しを図りながら事務の遂行状況の確認, 意見交換等も踏まえながら研修会への参加を図っていききたい。</li> </ul>
⑤ 経費節減に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昼食時間等業務に支障がないパソコンについては, 各自責任を持って電源を切るように努める。</li> <li>・ 各施設等については, 光熱水費等の節減に努める。</li> </ul>
⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 窓口業務については, 当初, 事務処理等で市民へ迷惑を掛けた事もありましたが, 現在では, 待ち時間も短く業務を処理できるように改善され, 応対接遇も良くなってきた。</li> <li>・ 経費節減等については, 全職員が節減に努めている。</li> </ul>
⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員自らが責任と自覚を持って業務を遂行できるように連携を図りながら今後, 進めていきたい。</li> </ul>

<p>⑧下半期及び17年度 を通して具体的な取組 の自己評価</p>	<p>主に4地区に於いての巡回移動連絡車による住民票や戸籍証明の発行業務を利用者が少ない地区の利用者状況を見ながら運行形態の改善を図った結果、1地区の移動業務を1月より休止したが、特に問題もなく、その分、窓口業務等の市民へのサービスの充実が図られた。各自責任を持って、昼食時間等業務に支障がないパソコン等の電源を切り経費節減に努めた。</p>
--	---

### 行動計画シート(下半期)

行動主体名	<b>下甌支所 下甌長浜診療所</b>
課・室・施設長名	<b>瀬戸上 健二郎 (兼)</b>
① 組織の使命	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に密着した医療機関として、良質な医療の提供と市民の健康管理の積極的推進。</li> </ul>
② 現状認識及び中期展望(向こう3年内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化の進む中であって、医療に対する住民の期待は大きく、安定した医師確保が必要。</li> <li>・ 職員一人ひとりが医療サービス提供のプロとしての意識を常に持ち住民の信頼を得る。</li> </ul>
③ 事務改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各診療所間の連携、各専門医との連携を積極的に推進する。</li> <li>・ 受付から診療、投薬、精算までの一連の業務がよりスムーズにいくよう所内の連携を図る。</li> </ul>
④ 接遇改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所内研修を月2回実施し、質の高いサービスに心がけ、住民に信頼されるよう努める。</li> </ul>
⑤ 経費節減に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委託事業のうち、保守点検等について真に必要なものか見直しを行う。</li> </ul>
<b>⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上半期途中で医師の交代があったが、研修することによって所内の連携はより図られ、サービス向上に努める意識が見られてきている。</li> </ul>
<b>⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師・看護師・事務のそれぞれの担当業務に対しては、当然のことながら責任をもって取り組み、横の連携を図りながら進めていく。</li> <li>・ 委託事業については、次年度以降の予算に反映できるよう年間を通じて見直しを行う。</li> </ul>
<b>⑧ 下半期及び17年度を通して具体的な取組の自己評価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週の初日(月曜日)にミーティングを行うことにより1週間の業務がスムーズに流れた。</li> <li>・ コピーは、両面コピーし用紙節約に努めた。</li> <li>・ 来診者には、声かけ、あいさつを行うよう心がけた。</li> </ul>



### 行動計画シート(下半期)

行動主体名	下甌支所 下甌手打診療所
課・室・施設長名	瀬戸上 健二郎
① 組織の使命	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に密着した下甌島地区の医療機関として、信頼のある医療の提供と市民の健康管理の積極的推進及び経営の健全化</li> <li>・ 他の医療機関との連携</li> </ul>
② 現状認識及び中期展望(向こう3年内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口の減少, 高齢化の進む中であって, 離島医療に対する住民の信頼を確保できる医療器械の整備</li> <li>・ 職務に関する認識の向上</li> </ul>
③ 事務改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本庁市民健康課との連携をとりながら経費の節減を図り診療収入の向上に努める。</li> </ul>
④ 接遇改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所内研修を実施し, 質の高いサービスに心がけ, 住民に信頼されるよう職員の意識の高揚に努める。</li> </ul>
⑤ 経費節減に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療従事者住宅及び所内の光熱水費の節約を図り, コピー代, 電話代等の節約, 医療消耗品の節約, 保守点検, リース代等について, 見直しを行う。</li> </ul>
⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本庁主管課が中心となり共通の薬品の共同購入, 予防接種価格等単価統一を準備し, 向上を図りつつある。</li> <li>・ 機会あるごとに職員に住民へのサービス, 接待を心がけさせ, 所内が以前より明るく思われる。</li> <li>・ 光熱水費の節約の貼り紙, 必要に応じコピー紙の裏再利用, パソコンのデスクトップ等を活用して節約している。</li> </ul>
⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記の促進を図り, 保守点検, リース代等についても不必要なものは廃止し, 料金の適正化を図りたい。</li> </ul>
⑧ 下半期及び 17 年度を通して具体的な取組の自己評価	<p><b>市民健康課と連携をとり、諸事務の見直し、医薬品の一部であるが単価統一等で経費の節減が図れた。</b></p> <p><b>こまめに不要な電源を切るなど節電に対する意識、コピー紙の裏利用が浸透してきた。</b></p>

### 行動計画シート(下半期)

行動主体名	<b>下飯支所 甌島敬老園</b>
課・室・施設長名	<b>宮野 勝友</b>
① 組織の使命	利用者に不安を与えないような、質の高い福祉サービスの向上を図る。
② 現状認識及び中期展望(向こう3年内)	(課題及び現状) 介護保険制度施行後の入所者の確保(定数割れ) 高齢化の進む中であって、福祉行政に対する住民の期待は大きい ため、社会施設設備の整備が必要。
③ 事務改善に関する行動計画	本庁、高齢・障害福祉課及び国保介護課と密接な連携が必要。
④ 接遇改善に関する行動計画	職場内研修を実施して、住民はもちろん入園者に信頼されるような職員としての資質向上を図る。
⑤ 経費節減に関する行動計画	施設内で委託可能な部分については、積極的に見直しを行う。
<b>⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価</b>	事務改善については、関係課と密接な連絡体制を図ったことで、以前よりは改善された。接遇改善については、毎月の職員会議の中での勉強会の成果が表れ改善されつつある。経費節減については、今後の検討課題である。
<b>⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方</b>	入園者の声を大切にし、福祉サービスの質の向上を図るためには、職員自らが、入園者に対し思いやりの心もち、また、運営面においては、最小の経費で最大の効果が得られるよう取り組む。
<b>⑧ 下半期及び17年度を通して具体的な取組の自己評価</b>	入園者が安心して暮らせる、施設づくりを目標に職員が一丸となって、老人福祉の向上に取り組んできた。入園者に対する対応もよくなってきた。 経費節減に関しては、施設内の公用車3台を処分した。また、施設の突発的な大規模修繕を除き、小規模な修繕費や備品等の故障については、業者にすぐに依頼するのではなく、部品等を購入し職員で修繕をして、経費節減に努めてきた。



### 行動計画シート(下半期)

行 動 主 体 名	<b>下甑教育支所 学校教育課</b>
課・室・施設長名	<b>原口 健児</b>
① 組織の使命	「地域の特色を活かした教育・文化のまちづくり」を基本方針とし、主体性・創造性・国際性を備え、人間性豊かでたくましく生きる薩摩川内市民の育成をめざすとともに、生涯学習の観点に立ち、学校・家庭・地域の協働による心豊かな人間性を育む「薩摩川内らしい教育」づくりに努める。
② 現状認識及び中期展望(向こう3年内)	<p>ア これまでの鹿島・下甑地域ではぐくまれてきた豊かな自然や伝統文化を尊重しながら、新たな薩摩川内市としての一体感のある取組や実践が必要である。</p> <p>イ 県教育委員会及び薩摩川内市教育委員会本庁並びに各支所等とより一層の連携を図る必要がある。</p> <p>ウ 鹿島・下甑地域の各学校、教育機関、地域等との連携を図りながら、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成及び特色ある期待に応える学校づくりを推進する必要がある。</p>
③ 事務改善に関する行動計画	<p>ア 薩摩川内市の教育方針をふまえ、薩摩川内市及び鹿島・下甑地域固有の豊かな自然環境や教育的風土・伝統を活かした教育活動を積極的に推進する。</p> <p>イ 個の応じたきめ細かな指導等のより一層の充実に努め、基礎学力の向上・定着及び豊かな心やたくましい体の育成を図り、保護者・地域住民の負託や期待に応える学校づくりを進める。</p> <p>ウ 説明責任及び結果責任等を果たし、学校における評価システムの改善・充実に努める学校の体制づくりを進める。</p>
④ 接遇改善に関する行動計画	<p>ア かねてよりあいさつ・言葉遣い・電話応対・服装等について配慮し、誠意をもって対応し適正かつ迅速に処理する。</p> <p>イ 児童生徒及び地域住民・市民本位の対応に努める。</p> <p>ウ 「開かれた学校・職場」づくりやゆとりもった円滑な職務遂行に努める。</p>
⑤ 経費節減に関する行動計画	<p>ア 「節電・節水」をはじめ、光熱水費及び消耗品費等の経費節減や施設設備の定期的な整備点検・処理に努める。</p> <p>イ 適正かつ効率的な事務処理に努める。</p> <p>ウ 自己及び職員の健康管理等に努める。</p>

<p><b>⑥ 上記③～⑤に対する 上半期自己評価</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 交流学习・テレビ会議システム等により薩摩川内市としての一体感を醸成する教育活動の推進を図り、積極的に取り組ませることができた。</li> <li>○ 積極的に校内研修等の訪問指導を行い指導力向上に努めたが、「個に応じた指導」や「まとめ10分」等の改善が必要である。</li> <li>○ 定期及び随時の学校訪問により接遇や環境整備・施設設備の管理状況等について把握し、対応及び指導に努めた。</li> </ul>
<p><b>⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定期及び随時に学校訪問を積極的に行い各学校の経営や教育活動の進捗状況等を把握し、見届けや指導助言に努める。</li> <li>○ 「個に応じた指導」や「まとめ10分」等の校内研修の充実と積み上げに努めさせる。</li> <li>○ 「正・速・美」の事務処理、施設設備の適正な保守管理に努めさせる。</li> </ul>
<p><b>⑧ 下半期及び17年度 を通して具体的な取組 の自己評価</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 管内小学校6校・中学校3校全ての学校で授業をとおした研修の推進に努めさせ、「実態に基づいた分かる授業」「まとめ10分」の充実等について指導助言することができた。来年度も引き続き、基礎学力の定着・向上を重点に取り組みたい。特に、中学校英語の学力向上が課題である。</li> <li>○ 「テレビ会議システム」の積極的な活用を働きかけ、各校とも授業及び情報交換・行事連絡等に活用することができた。また、「春夏秋冬事業」等により本土地域の学校や児童生徒との交流や体験活動を実施できた。来年度も、より一層の充実を図りたい。</li> <li>○ 事務処理の「正・速・美」に努めてきたが、提出期限を若干猶予してもらったこともあった。各学校からの提出期限や報告物等の集配・使送を見直すとともにさらに「正・速・美」に努めていきたい。</li> </ul>

(下甌教育支所：学校教育課)

### 行動計画シート(下半期)

行動主体名	下甌支所 産業課
課・室・施設長名	南 隆文
① 組織の使命	<p>● 下甌支所における地域産業の構築と浮上</p> <p>産業課は、事業課として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農林業の振興について</li> <li>・ 水産業の振興について</li> <li>・ 観光業の振興について</li> <li>・ 商工業の振興について</li> </ul> <p>が使命としてあげられる。</p>
② 現状認識及び中期展望(向こう3年内)	<p>これらの振興を図るための、農林産物加工センターや離島物産開発センター、竜宮の郷、観光船おとひめ、手打港待合所、キャンプ場、武家屋敷跡の街路灯などの施設を管理している。</p> <p>これらの施設は老朽化が進み、今後、維持補修費などの経費がかかってくると思われる。</p>
③ 事務改善に関する行動計画	<p>これらの施設は、地元にとって必要な施設であるために、今後も維持しなければならない。そのためには利用者と施設の現状について協議を行い、担当者それぞれが定期的に施設を見直すことが必要である。そのことによって、最終的に大きな補修にならず少ない経費で施設を運営することができる。そのことが無駄な経費を省くことにつながる。</p> <p>また、台風常襲地である甌島地区にとっては、台風災害を未然に防ぐ手だてにもなる。</p> <p>● 施設の現状を把握する。(施設レポートの作成)</p> <p>各施設に担当を割り当て、次の事をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在どのような維持費がかかっているか。 (継続経費か臨時的経費か)</li> <li>・ 今後、どのような経費が見込まれるか。</li> <li>・ 利用者が誰でどのような目的で使っているか?</li> <li>・ 利用者の声が反映されているか。</li> </ul>
④ 接遇改善に関する行動計画	<p>産業課にとっては、観光船おとひめや竜宮の郷といった観光施設を運営しており、観光客に対する接遇は非常に大切であり、接遇如何では薩摩川内市のイメージダウンにつながりかねない大きな意味を持つ。</p> <p>課員ひとりひとりが接遇の重要性を認識して、観光客に質の高いサービスを提供出来るように心がけたい。また、そのための協議も実施したい。</p>

<p>⑤ 経費節減に関する 行動計画</p>	<p>●施設レポートの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設レポートに基づきそれぞれの施設を職員で回り再検討する。</li> <li>・検討事項の目的達成点を設定する。</li> <li>・検討事項を利用者に周知する。</li> <li>・結果を定期的にまとめ再検討する。</li> </ul>
<p>⑥ 上記③～⑤に対する 上半期自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竜宮の郷の「料理の改善」,「接客改善」を図り,イメージアップにつながった。</li> <li>・観光施設の維持補修等については,職員で対応し,経費節減に努めた。</li> </ul>
<p>⑦ 上半期の評価を踏ま えた下半期の進め方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が自らの仕事の価値や意味を認識し,最小の経費で最大の効果をあげるよう,進めていきたい。</li> </ul>
<p>⑧ 下半期及び17年度 を通して具体的な取組 の自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光船や竜宮の郷の接客の重要性を認識し,サービスの提供に努めた。</li> <li>・観光施設の維持補修等は,職員で対応し経費の節減に努めることができたが,その分事務作業後回しになり苦慮した。</li> </ul>

(下甌支所：産業課)

### 行動計画シート(下半期)

行動主体名	<b>下甌支所 建設水道課</b>
課・室・施設長名	<b>宮 三千朗</b>
① 組織の使命	下甌町における道路をはじめとする社会施設の維持整備，市民生活の生命線である上下水道施設の保守，住宅困窮者へ市営住宅の提供，その施設の維持管理，市民の大切な財産の地積調査による保守等を図り市民福祉の向上を使命とする。
② 現状認識及び中期展望(向こう3年内)	水道の漏水に対しては現在直営で補修に対応しているが，担当職員の負担が大変大きいので，管工事業者の育成を図り，本庁のように当番制で対応できるようにしていきたい。
③ 事務改善に関する行動計画	支所では，一人何役の業務を担っている現実である。担当者がいなくてもスムーズな対応ができるよう，主な担当業務でなくても仕事に精通するよう，現場に同行するなどして自分の担当でない仕事も覚えるようにする。
④ 接遇改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつの励行</li> <li>・ お客様（市民）が見えたら用事を伺うため職員から話しかける。</li> <li>・ 工事計画等は地権者・地区民に文書・説明会・放送などで説明責任を果たす。</li> <li>・ 電話対応については言葉使い，用件など丁寧に対応する。</li> </ul>
⑤ 経費節減に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昼休みの消灯，帰庁後のパソコン・印刷機・コピー機の電源オフの徹底。</li> <li>・ 通信については，メール・使送便を利用し，郵便は最小限にする。</li> <li>・ 公用車利用については同方向に用件がある時は便乗する。</li> </ul>
⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価	限られた人員で日々の業務を遂行している。その中で行動計画にあげたことが日常普通にできるよう努力している。 ③については本庁主管課と充分連絡調整を図り人員の応援など業務の効率化を図っている。（例．公共災害対応等）
⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方	行動計画に沿って上半期に十分でなかった面は特に気をつけて実行していく。
⑧ 下半期及び17年度を通して具体的な取組の自己評価	<p>③ 年度終わりになって25件の道路災害復旧工事を発注したものの、担当職員1名では手に負えず課内で検討した結果、グループ制を導入し乗り切った。</p> <p>④ 公用車利用は、他の課より現場に出る回数が多いため業者に前日までに「立会い・検査依頼書」を提出させ相乗りで調整を図った。</p>



### 行動計画シート(下半期)

行 動 主 体 名	<b>下甌教育支所 教育課</b>
課・室・施設長名	<b>和田 正富</b>
① 組織の使命	『地域に誇りをもち、創造力と行動力あふれる人材づくり』を基本目標とし薩摩川内市教育委員会の重点施策を踏まえ、健康で思いやりがあり、教養・文化の香り高い、自ら学び続ける町民の育成を目指す。
② 現状認識及び中期展望(向こう3年内)	住民の生活意識の変化や高齢化の進行, 連帯意識の低下等に対し, 各種団体, 公民館等の自主的活動は生涯教育等の充実・振興に大きな役割を果たし, 地域コミュニティ形成の源になっている。幸いにもこの4月から地区コミュニティ協議会が設置されスタートした。自ら考え行動する住民主体のまちづくりの実現が期待される。行政組織も大きく広がり地域の連帯感を深めるためにも, 本庁の指導を仰ぎながら, 鹿島地域と下甌地域の教育機関の一体化を図る必要がある。
③ 事務改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初心に帰り事務の見直しと洗い直しを行う</li> <li>・ コミュニティ協議会との連携を図る</li> <li>・ 鹿島地域と下甌地域の教育機関の一体化</li> <li>・ スクールバス及び給食運搬事業の民間委託</li> <li>・ 学校主事7名の嘱託化</li> </ul>
④ 接遇改善に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常に先を見通した行動を心がけ, ゆとりを持った丁寧な職務遂行に努める。</li> <li>・ 住民からの問い合わせや相談等に対しては, 誠意ある対応や迅速な事務処理に努める。</li> </ul>
⑤ 経費節減に関する行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鹿島地域と下甌地域の教育機関の一体化</li> <li>・ スクールバス及び給食運搬事業の民間委託</li> <li>・ 学校主事7名の嘱託化</li> <li>・ 交通網が整備されることにより中学校及び幼稚園の統合化</li> </ul>
⑥ 上記③～⑤に対する上半期自己評価	・ コミュニティ協議会との連携を図りながら住民からの問い合わせ等に対しては誠意ある対応で迅速な事務処理に努めた。
⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方	・ 自己及び課員の健康管理等に努め, 適正かつ効率的な事務処理に努める。

<p>⑧下半期及び17年度 を通して具体的な取組 の自己評価</p>	<p>・事務改善及び経費節減に関する行動計画は、あまりにも目標を大きく設定したので実際の取組はできなかったが、一部は行政改革の中で検討されている。経費節減については、地球の温暖化防止のためにも節電や用紙節約に努めた。用紙節約で工夫した点は資料等の印刷は両面刷りや裏面への再印刷,そして,課員による資料の共有化等が挙げられる。</p>
--	--



### 行動計画シート(下半期)

行 動 主 体 名	下飯教育支所 下飯学校給食センター
課・室・施設長名	中川 一成
① 組織の使命	<p>本給食センターは、職員2名、学校栄養職員1名、給食調理嘱託員4名で運営している。</p> <p>育ち盛りの子供たちに安全で栄養バランスのとれたおいしい給食を提供することを使命とする。</p> <p>最近の「地産地消」も取り入れ地元食材の積極的な使用、伝統的な地域の行事食・季節を感じる食材を献立に取り入れるなど、子供たちの「食」への関心を高めるとともに故郷の伝統なども理解してもらい、学校教育活動の土台となる「健康な身体づくり」のための献立づくり、調理に努める。</p> <p>また学校給食会の健全な運営に努めるとともに安全で確実な学校給食を実施する。</p>
② 現状認識及び中期展望(向こう3年内)	<p>過疎化、少子化で園児、児童、生徒がますます減少している現状では、ますます財政が逼迫してくるが、施設運営維持は従来と変わらず経費が必要であり、このため合理的な運営のためには給食センターの統合等が考えられる。</p> <p>また給食の配送などの民間委託などの導入も検討する必要がある。</p>
③ 事務改善に関する行動計画	<p>1 財務会計ソフトを導入し迅速な事務処理に努める。</p> <p>2 事務分掌を見直し、合理的な事務に努める。</p>
④ 接遇改善に関する行動計画	<p>1 各学校、児童生徒からの問い合わせや相談に対しては丁寧で誠意ある対応に努め、即答できない場合も速やかに回答できるように迅速な事務処理に努める。</p>
⑤ 経費節減に関する行動計画	<p>1 食材納入業者等の再検討をする。</p> <p>2 所内消耗品等を見直して経費節減に努める。</p> <p>3 給食の民間委託を検討する。</p>

<p><b>⑥ 上記③～⑤に対する 上半期自己評価</b></p>	<p>③の財務ソフトの支所配置数に制限があり、直ぐには難しいとの財務課の回答で、今後もソフト配置をお願いしたいと考えている。また事務分掌についても職員定数や嘱託員の民間委託などの導入なども検討されていることから当分の間は現行の体制でいかなければならないと考えている。</p> <p>④については外部からの問い合わせには即答できない場合は、速やかに調べ回答出来るよう努めている。</p> <p>⑤の食材納入者の見直し、所内消耗品の見直しについても同じ島嶼部の他の給食センターの状況なども調べて、少しでも経費節減につながるよう努めている。</p> <p>⑤の3の給食センターの民間委託についても、本給食センターの鹿島給食センターとの機能統合が決定されており、今後、学校給食課で細部の調整を行って調理、配送部門の民間委託を検討する予定である。</p>
<p><b>⑦ 上半期の評価を踏まえた下半期の進め方</b></p>	<p>⑤の給食センターの機能統合に向かって、平成17年度は「補助金のあり方」から検討するとの学校給食課の方針であるので、18年度当初予算作成においては鹿島休職センターとの補助金の算出方法の統一化、給食費の均等化等を検討する。</p> <p>また補助金の見直しは給食費の見直しに直結するので、学校及び家庭との連絡・連携を強化し、理解をもらいながら給食センター機能統合を検討し、その中で給食の調理・配送部門の民間委託の導入も検討したい。</p>
<p><b>⑧ 下半期及び17年度を通して具体的な取組の自己評価</b></p>	<p>給食センターの機能統合が平成19年度に決定し、施設の改修計画を始め、機能統合に向かったの様々な問題点を検討した。</p> <p>施設の改修は本庁学校給食課と協議し、要望をした。</p> <p>平成18年度の当初予算作成にあたって本庁給食課から補助金の算定方法の統一化、給食費の均一化を検討するよう指示があったので、様々なシュミレーションを作成し、給食費の見直しを検討した。</p> <p>旧村時代から給食費については潤沢な補助金をもらい、給食費を甕地区で一番低い額に抑えてきた本給食会にとっては補助金の大幅な見直しは、食材料費の水準を下げるか、給食費の見直しをするかの二つの方法しかなく、いまさら現在の給食の水準を下げるわけには行かないため、給食費の見直しを検討した。</p> <p>しかし、すでに給食課から平成19年度に鹿島と機能統合した場合の給食費案が出されており、鹿島との均一とするため大幅な値上げとなっているので、保護者及び学校の理解を得るのは難しいと思われたが、給食課の指導もあり、3月の給食会の運営会で機能統合が決定したこと、その場合の鹿島との給食費の均等化により大幅な給</p>

食費の値上げが予想されていることを説明し、給食課が勧める平成18年度に小幅な値上げをし、平成19年度に一举に上がらないようにする案を提案したが、19年度に値上げが決定しているのに、18年度も値上げするのはおかしいとの意見が大半を占め、否決された。平成17年度の具体的な取り組みの自己評価としては平成3年頃から上がっていない給食費の見直しを図ったことは評価出来ると思われる。

結果として否決されたが、過疎化、少子化で児童・生徒数が減少し、ますます給食会の財政が逼迫していること。現在の給食費が薩摩川内市管内で一番低いこと、この低い給食費でやってこられた理由が旧村時代からの潤沢な補助金であったこと。この補助金の算定が甑地域で均等となること。したがって給食費の値上げが避けて通れない道であることを保護者に理解してもらったことである。

今後は給食費を始めさまざまな値上げが予想されるので、どのように住民に理解してもらうかが課題である。

(下甑教育支所 下甑学校給食センター)